

農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員長 松永晋一
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

「平成26年度 遊休農地活用シンポジウム」開催 遊休農地をどう活かす？

遊休農地とは、数年耕作がされておらず、なおかつ草刈や耕起などの維持管理がされていない農地をいう。
毎年秋、農地の利用状況の総点検、遊休農地の発生防止や違反転用防止対策のため、農業委員による農地パトロールを実施している。その結果、当市では全農地の約20％が遊休農地化している状況だ。



原因の一つに、農業の担い手不足や、後継者不足などが考えられる。今後、遊休農地に関して、その利用方法について意向を伺い、有効に活用されるよう対策を講じていく必要がある。
そのヒントを2月9日、長野市で開催された遊休農地シンポ

ジウムの講演から模索してみよう。講師は（独）農業・食品産業技術総合研究機構の遠藤和子主任研究員だ。
■6次産業への取り組みをスタート

ある地域では、年配の女性たちで農事組合を設立した。遊休農地を利用し、大根やそばなど作る傍ら、水稲や特産品づくりも行っている。多少の小遣いが稼げるだけでなく、栽培技術の向上や、市場からの刺激、また活動を通じて仲間意識や自分も社会貢献しているんだという意識が高まり、それが生きがいへとつながっているという。
■自分たちの暮らす地域をよくしたい。そのために始めたのは水路の草刈から・・・
今農村の抱えている問題の中に、遊休地化に加え、その周辺の農道や用水路の維持管理だ。そんな課題を解決した事例を紹介しよう。

ある地域では、荒れていく水路の草刈や清掃を始めた。年を重ねるごとに、アジサイを少しずつ水路沿いに植えるようになった。この活動から、地域の人々に絆が育まれ、やがては地域住民の地域づくりの基盤となっていた。現在ではアジサイは3万本を超え、5月にはアジサイ祭りが行われている。

訪れた人々から賞賛を浴び、それが活動の励みとなるばかりか、このアジサイが、故郷の地域資源となり、それが故郷を愛する拠り所となつていく。
どこの地域でも、この地域を何とかしたいと思っている人は必ずいる。そんな人たちを繋ぐ場を、そして活動を起こすきっかけを見つけることができれば、その地域の未来が大きく変わる。
農地を生産の場としてのみ捉えるのではなく、地域づくり、人づくりの場として捉えてみるの時には必要ではないだろうか。

事務局 坪根

あぜ道だより



木島地区農業委員 佐藤 嘉一

農政が大きく変わる
今がチャンス！

新聞等で毎日のように農政改革やTTPなど数多くのニュースが報道されています。ニュースを見ていて、何を机の上で簡単に農政をいじくっているのかと腹立たしく思っています。政府は大規模な農家を育てなければいけないと50畝規模以上に設定しております。

現在、北海道ではもう50畝規模は普通で、100畝規模以上に大きくなりつつあります。北海道や何々平野といわれる地域は大きな規模にするべきなのかもしれません。飯山はどうでしょう。関田山



長野県伝統野菜 坂井いも

北信州農業委員会協議会研修会に参加して

2月16日(月)北信合同庁舎で「農業・農業委員会を巡る情勢について」と「可能性の無視は最大の悪策」過疎の村から世界のマーケットへと題した講演会が開催されました。

「農業・農業委員会を巡る情勢について」今回の農業改革は半世紀ぶりの大改革になります。

農業委員会制度に関して自民党の改革案は、公選制を廃止し市長が任命し、人数を現在の半数にし、新たに農地利用適正化推進委員（仮称）を置くといった内容です。

今後のスケジュールは4月に法案が審議され、6月の国会で決定、9月頃改正法の公布、平成28年4月より施行の見込みです。



「可能性の無視は最大の悪策」と題した高野氏（石川県羽咋市役所文化財室長）の講演は限界集落（羽咋市神子原地区）の高齢化率を改善した内容で、いろいろな条件で恵まれたとは言え、理念を持ち、実際に行動していく姿勢はすばらしいものです。
■人の集まりが家（家族）↓集落↓市町村↓県↓国…と広がっていく（人が大切）
■知識とは知を識にする事である。知を識にしている人が多い
■基本的な考え（理念）を実践する↓誰が取り組むか議論（公議）だけでは前へ進まない
■お酒の飲める女子（大学生）を連れてくる。女子が来れば男子も来る。女子はじーちゃんが好き、男子はばーちゃんが好き
■枯れる生き方↓本物は腐らず、ひからびるだけ。自然農法（遊休農地が最適）
■売れる商品（ブランド）をひとつ造る↓すそ野が広がる、広げていける
■元氣（活気）で他人とのつながりのある過疎をつくる↓人口が増えるだけが活性化ではない

あしあと 1・2月の活動記録

- 1月8日 農業委員会役員会
- 21日 農業委員会活動活性化セミナー（松本市）
- 28日 1月農業委員会総会
- 2月9日 遊休農地活用シンポジウム（長野市）
- 12日 農業委員会役員会
- 16日 北信州農業委員会協議会室内研修（中野市）
- 27日 2月農業委員会総会



■販売戦略（マーケティング）の実践↓販売先、情報、メディアの最大限の活用
飯山市にも住んでいる人が気づかない宝（お金になるもの）があります。それらを活かし、いかに今住んでいる人を元気にしていくか。行政や農業関係の経済団体の積極的な関与はもちろんですが、住んでいる人自身が既成概念や慣習にとらわれない自主的な行動が求められます。そこに我々農業委員も積極的に関わっていければよいと思います。蛇足になりますが、確かにお金が生まれませんが、確かに人は集まらないし、お金がないと生きていけないのです。・・・何か違う気がします。情報委員 小嶋

4月1日より
農地台帳がインターネット等で公表に・・・
飯山市にかぎらず全国的に遊休農地化の解消が大きな課題となっています。
農業の担い手が減少するなかで、担い手への農地集積を進めていくために、農地の情報をインターネット等で発信していくことが法律でできました。
公表される内容は、農地の地番や面積等です。土地所有者の氏名は、農業委員会の窓口のみ閲覧が可能となります。



す。なお住所は公表しません。不明な点がありましたら農業委員会事務局までお問い合わせください。

飯山市農業委員会事務局
飯山市役所農林課内
電話：0269 - 62 - 3111（内線 261）
FAX：0269 - 62 - 6221